

その他のコウチュウの仲間



ジョウカイボン的一种(コウチュウ目ジョウカイボン科)
体長: 14 ~ 18mm 生息場所: 林縁部 撮影: 細江 崇



ヨツボシケシキスイ 右 (コウチュウ目ケシキスイ科)
体長: 4 ~ 14mm 生息場所: 樹林 撮影: 細江 崇

河川との関わり

河原の砂礫地、草地、河畔林、狭窄部の斜面林を生息場所としています。

「平成10年度河川水辺の国勢調査 陸上昆虫類等」では、前ページまでに紹介したコウチュウ以外にも、エンマムシの仲間、シテムシの仲間、アリツカムシの仲間、ケシキスイの仲間、ハナノミの仲間、アリモドキの仲間など、多くのグループが確認されました。このうちのいくつかを以下に紹介します。

エンマムシの仲間は5種が確認されました。この仲間には、オオヒラタエンマムシのように樹皮下に生息してハエ類の幼虫などを捕食する種、ニセハマベエンマムシのように動物の死体や糞に集まる種、コエンマムシのように野菜屑などの植物腐敗物に集まる種などがいます。

シテムシの仲間は5種が確認されました。この仲間は腐肉食性で、動物の死体を食物としています。その中で、モンシテムシ類は数個体が死体を下から持ち上げ、埋めやすい場所を探して移動させます。死体を土中に埋めあと、それを餌として繁殖します。このように死体をきれいに片づけてしまうことから「埋葬虫」とも呼ばれています。

カツオブシムシの仲間は3種が確認されました。この中で人間の生活となじみ深い種がヒメマルカツオブシムシで、成虫は春から初夏に主に白い花の上で見られますが、幼虫は衣類を食い荒らす虫としてたいへん嫌われています。このように衣類も食べますが、一般的には乾燥した動物質を餌としていて、昆虫の標本や動物のはく製などを食べます。また、餌が不足しても自分の脱皮殻を食べて生きながらえる力もっています。

コウチュウ類は、天竜川で確認した昆虫類のなかで最も種数が多いグループです。そのため、よく研究されている一部を除くと、生態面などで解明されていない未知の部分が多く、今後の詳しい研究が期待されるグループです。



ヨツボシテントウダマシ(コウチュウ目テントウムシダマシ科)
体長: 4 ~ 5mm 生息場所: 砂礫地 撮影: 細江 崇

昆虫の名前

昆虫に限ったことではありませんが、いろいろな生き物には世界共通の名前である学名がついています。それとは別に日本独自の名前である和名もついていて、普段はこの和名で呼んでいることが多いです。「モンシロチョウ」これは日本独自の名前と和名です。モンシロチョウの学名は「*Pieris rapae*」といい、現在ではどこの国でも使われていないラテン語で示します。Pierisは属名で、モンシロチョウに近縁の仲間には全てについています。rapaeはモンシロチョウという種に与えられた名前です。たとえばモンシロチョウに近縁の「スズグロシロチョウ」の学名は「*Pieris Melete*」といいます。

さて、昆虫に与えられた日本独自の名前である和名はほとんどが漢字で表すことができます。

アゲハチョウ	揚羽蝶
カブトムシ	兜虫
ゲンジボタル	源氏蛍
トノサマバッタ	殿様飛蝗
カマキリ	螳螂

本州には約170種の蝶が生息しています。その中で和名を漢字に直せない蝶が4種類だけいます。「シータテハ、エルタテハ、ルーミスジミ、アイノミドリシジミ」です。シータテハのシーはアルファベットの「C」、エルタテハのエルもアルファベットの「L」を指します。ルーミスジミのルーミスはこの蝶を最初に発見した外国人の名前です。アイノミドリシジミのアイノはアイヌ語と言われていています。

日本の国蝶になっている大きくて紫色の蝶には「オオムラサキ」という和名がつけられています。また、小さくて鎌のような顎をした虫には「コクワガタ」という和名がつけられています。一般的にからだの大きなことを表すために「オオ」、小さなことを表すために「コ」や「ヒメ」が使われています。コウチュウの仲間には「ベニモンチビオキノコ」、「ヒメオビオキノコ」という昆虫がいます。どちらも小さくて大きい不思議な虫ですね...

昆虫のなかには「ニセ〜」、「〜モドキ」、「〜ダマシ」といった和名がよくつけられています。これらは、ある昆虫に似ているけど、別種であるときに使われます。一般的にニセ、モドキ、ダマシ等の言葉はあまり良い意味で使われることが少なく、その様な名前をつけられた昆虫が少し気の毒に思います。